



逆風に打ち勝ち目標に向かい
トライし続ける宮浦健人選手

その経験から困難を乗り越えて成長し続けるために重要なのは、「思考を止めないこと」「こんなことをやってみたらどうだろうか?」と自分で仮

現在の、宮浦選手はチームの攻撃の要になるポジションであるオポジットを任されていますが、日本代表には宮浦選手と同じサウスポーター、同じポジションで切磋琢磨する1学年下の西田有志選手がいます。

「ライバルの存在を力に変え
足りない部分に向き合う」

現在、宮浦選手はチームの攻撃の要になるポジションであるオポジットを任されていますが、日本代表には宮浦選手と同じサウスポーター、同じポジションで切磋琢磨する1学年下の西田有志選手がいます。

ライバルの存在を力に変え
足りない部分に向き合う

現在、宮浦選手はチームの攻撃の要になるポジションであるオポジットを任されていますが、日本代表には宮浦選手と同じサウスポーター、同じポジションで切磋琢磨する1学年下の西田有志選手がいます。



宮浦健人選手

バレーボール
／ウルフドッグス名古屋
1999年2月22日生まれ
熊本県熊本市出身
熊高高等学校(熊本県)時代、全国大会で活躍。卒業後は早稲田大学へ。大学では全日本インカレ4連覇を達成。2021年にジェイテクトSTINGSへ入団し、同年、日本代表に初選出。2024年にはパリ2024オリンピックに出場。現在はウルフドッグス名古屋に所属し、サウスポーターを生かした力強いスパイクとサーブを武器に日本代表でも活躍中だ。

トップアスリートに
聞く!

思考を止めない姿勢が
将来につながる

瞬間瞬間を積み重ね
思考を止めずにトライし続ける

高校3年生のときに熊本地震(2016年)を経験した宮浦選手。今回2026年7月、再び大きな災

害に見舞われ、つらい思いをしている子どもたちへ向けて、「立ち止まっても時間は進んでいきます。もしも目標を持てないなら、何も無い時間をもたない。時間をムダにせず、瞬間瞬間を積み重ねる気持ちで頑張ってもらいたい」とエールを送ります。

また、「それができるのも、根底に『好き』という純粋な気持ちがあるからこそ」と宮浦選手。熱意を持って向き合うことが自分を高めていく第一歩となるのです。

今、キミができることはなんだろう



そして「試合では、練習してきた以上の力は出せません。逆に言えば、試合で自信を持つために日々の厳しい練習があります。一つひとつまっすぐに積み上げてきた練習の記憶こそが、自分の最大の強みです」と言い切る宮浦選手。徹底した準備と揺るぎない覚悟が、大舞台で結果を残す力となっているのです。



「フェアプレーニュース」の
ダウンロードはこちらから

JSPB

フェアプレー★ニュース

FAIR
PLAY
NEWS
Vol.175

2026年10月19日発行

フェアプレーストーリー

現状に100%で向き合う姿勢が強いエースをつくる

バレー
ボール

宮浦健人選手

